

学会記事

日本地質学会2020年度 第3回理事会議事録

日時：2020年9月12日（土）14:00～17:00

【Web会議形式】

出席役員 理事（44名）：芦寿一郎・天野一男・安藤寿男・磯崎行雄・ウォリス サイモン・内野隆之・大藤 茂・岡田誠・緒方信一・尾上哲治・笠間友博・狩野彰宏・亀田 純（14:30退出）・亀高正男・川端清司・北村有迅・清川昌一・小松原純子・小宮 剛・齋藤 眞・坂口有人・佐々木和彦・杉田律子・高嶋礼詩・竹下 徹・辻森 樹・内藤一樹・中澤努・納谷友規・奈良正和・西 弘嗣・根本直樹・野田 篤・早坂康隆・平田大二・星 博幸・細卓志・保柳康一・松田達生・三田村宗樹・道林克禎・矢島道子・矢部 淳・山口飛鳥 監事（2名）：岩部良子・山本正司

欠席役員 理事（5名）：上松（渡邊）佐知子・亀尾浩司・後藤和久・藤井正博・松田博貴

*磯崎会長より、名古屋大会代替企画が様々なに進んでいる状況が紹介され、WEBのメリットも生かして、コロナ禍でも歩みを止めない活発な学会活動をすすめていきたい旨の挨拶があった。

*成立要件：理事総数 49名の過半数 25名 本日の出席者44名で本理事会は成立。

*議決：出席者の過半数 23名

*開催にあたって、北村理事および内野理事を書記に指名した。

報告事項

1. 執行理事会報告（中澤常務）

1) 中澤常務理事から8月及び9月の執行理事会の議事報告があった。

2. 理事・委員会・研究委員会の報告

1) 総務委員会（緒方理事）

・会員動向の報告（2020年8月末現在：3435名（昨年比-174））があり、4月以降の逝去会員に対し黙祷を捧げた。

・会員管理へのクラウドシステム導入、会計における収支改善策、会員増加策について検討中との報告があった。

2) 名古屋大会代替企画の進捗状況

・表彰・記念講演（9月13日YouTube Live）・ショートコース（9月19日；10月24日）（星理事）：Zoomの契約を100名以上に変更、多数の参加者への対応を可能とした。ショートコースは3回目開催も検討する。

・支部オンライン例会（平田副会長）：四国・西日本支部が開催予定。

・JABEEシンポジウム代替企画（オンライン）（佐々木副会長）：2021年3月7日（日）14時～16時半開催予定。

・ジュニアセッション（デジタルポスター）

（高嶋理事）：応募数が少ないので周知協力の依頼があった。9/30募集締切。10月中に理事が審査を行う予定。

・キャリアビジョン誌の制作（坂口理事）：現在21社より掲載の申し込みがあった。

・構造地質部会オンライン例会（中澤常務理事）：10/7-9開催予定。学生の発表に対して部会独自に学生優秀発表賞を授与する（→審議事項へ）。

・コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム（星理事）：9月27日の開催案内があった。

3) 地質学雑誌編集委員会（大藤理事）

・最近の編集状況に関する報告があった。

・斎藤理事から、冊子体のカラー印刷無料は投稿先の重要な選択基準になるという意見があった。これについては以前も検討したが、財政上の理由により実現は難しいと回答があった。

・天野理事より、編集委員会からジオパーク支援委員会への特集号企画要請に対し、ジオパークに関する原稿は、歴史や経済活動等地質学以外の内容も含めざるを得ないため委員会内では投稿先としての適性に疑問の声があることが紹介された。一方で教育・普及などの重要性から本特集号を地質学雑誌で企画する意義も強調され、理事会でも同様の意見があがった。今後支援委員会と編集委員会で特集号出版に向けて前向きに検討をすすめる。

・コロナ禍における海外の対応例（例えば、バーチャル地質学）の紹介原稿の掲載や外国人向け投稿規程の充実の提案が竹下・杉田理事からそれぞれあった。

4) Island Arc編集委員会（狩野理事）

・投稿数の増加など、最近の編集状況に関する報告があった。今後の参考のためにIF上昇（19年：0.893→20年：1.655）の要因を分析し、次回理事会で報告することとなった。

審議事項

1. 地質標準化委員会の新設と委員会メンバーについて（中澤常務理事）

地質標準化委員会の新設と所掌、委員構成（委員長 辻森 樹、委員3名）について提案があり、提案通り承認された。また新委員会では、古第三紀・新第三紀の名称に関する議論も視野に入れて欲しい旨の意見があった。

2. 理事会規則改正の提案（中澤常務理事）

地質標準化委員会新設および専門部会の表彰制度に関わる理事会規則の改正の提案があり、提案通り承認された。今後は支部同様、専門部会も独自の表彰制度を設置することができる。また支部・部会における賞と学会の賞とを明確に区別するためWEBでの公表方法などを検討する。

3. 各賞選考委員会規則改正の提案（磯崎会長）

学会賞等人物の選考を要する各賞選考検討委員会（各賞選考委員会の諮問機関）の委員構

成の変更に関する規則改正について提案があり、提案通り承認された。

4. 地質学雑誌投稿編集出版規則改正（大藤理事）

誤字等の軽微な修正に加え、非会員からの原稿やデータポリシーに関する文言追加などの規則改正が提案通り承認された。

5. 表彰制度の見直しについて（磯崎会長）

現行の受賞対象の変更や賞の新設などについて提案があり、大筋で了承され継続審議となった。2021年の総会で承認を受けられるようさらに検討を進める。

2020年10月6日

理事：議長 道林克禎

理事：副議長 山口飛鳥

代表理事：会長 磯崎行雄

（以下、出席理事氏名省略）

2020年度第4回執行理事会議事録

期日：2020年9月12日（土）10:00～12:30

【WEB会議】

出席者：磯崎会長・平田・佐々木・中澤・岡田・緒方・亀高・辻森・ウォリス・星・坂口・小宮・大藤・狩野・松田・矢部・高嶋

事務局 澤木

欠席者（委任状提出あり、カッコ内は委任者）：なし

*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者 17名、委任状0名、合計17名の出席

*前回議事録（20-3回）の確定。

I 審議事項

1. 理事会審議事項及び資料確認

①地質標準化委員会の新設と委員会メンバーについて（中澤）

②理事会規則改正の提案（中澤）

③各賞選考委員会規則改正の提案（磯崎会長）

④表彰制度の見直しについて（磯崎会長）

⑤地質学雑誌投稿編集出版規則改正（大藤）

2. 代替企画の今後の取り組みについて（星）

・ショートコース：第3回以降も企画することを検討

・コロナ禍での地質学教育サイバーシンポ：第2回（11-12月）も検討

3. 表彰制度の見直しについて（磯崎会長）

おもな提案は以下の通り。

・日本地質学会賞を学術・功績の2つに分ける名称や功労賞との棲み分けについて要検討

・50歳未満を対象とする賞（ナウマン、松山基範、小林貞一賞 どの名称にするか？）

・小澤賞・棚山賞の対象年齢を37歳未満から博士号取得後5年未満へ変更

・小藤文次郎賞 評価対象論文を過去2年間から過去5年間へ変更
・地質学雑誌特別賞を新設
・奨励賞：35歳未満から32歳未満へ変更
・ジュニアセッション優秀賞・奨励賞を新設
21年総会承認、22年度選考からの反映を目指して、今後理事会、執行理事会で議論を進めていく。

II 報告事項

1. 全体的報告

・8月4日付令和2年7月豪雨災害についての会長談話を発表した。(→HP, ニュース掲載)
・名古屋大会の代替企画について(状況報告)

①表彰・記念講演(星)：9/13 Youtubeライブ配信予定で準備中。

②ショートコース(星)：第1回分8/5-9/7(月)の申込者が定員を超えたため、zoom契約内容をアップして全員受け入れることとした。第2回分9月下旬より受付開始予定。

③地質学教育に関するサイバーシンポ(星)

④支部単位の学術発表会(平田)：四国支部が12月に講演会を開催予定。

⑤JABEEシンポ代替企画としてのオンラインシンポジウム(佐々木)

⑥ジュニアセッション(デジタルポスター)(高嶋)：参加校申込受付中(9/30締切)。Zoomを利用した直接対話形式での生徒とのやりとりの実施を検討したが、再開後の学校側の負担が大きくなり、日程調整も難しいことから今回は見送ることとした。従来通り行ってきた研究者からの講演を充実させる。

⑦地質系若者のためのキャリアビジョン誌(坂口)：掲載企業募集中

⑧構造地質部会オンライン例会：10/7-9開催予定。9/28予稿受付締切。学生への部会独自の表彰を希望。このため、部会内で表彰に関する細則を作成し、理事会規則に専門部会の表彰制度に関する条項の追加を提案する(→理事会審議事項へ)。

2. 運営財政部会(緒方・亀高)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

・山田科学振興財団2020年研究援助募集(10/31締切)(→geo-flash, ニュース9月号掲載)

・笹川科学研究助成募集(9/15-10/15)(→geo-flash, ニュース9月号掲載)

・令和2年千葉県職員採用選考(地質職)実施案内(8/25-9/18)(→geo-flash)

・公益財団法人深田地質研究所より理事長交代の挨拶があった(新理事長：千木良雅弘)。

・第30回環境地質学シンポジウム(11/27-28)の共催依頼があったが、実質的な協力内容に即して、後援として承諾する旨回答する。

<会員>

①今月の入会者(4名)

正会員(2名)：鎌田隆史(退会再入会)・田中

浩紀(除籍再入会)

正(院割)会員(1名)：山本一平

正(学部割)会員(1名)：柴崎勇真(高校生)

②今月の退会者(2名)

正会員(2名)：三浦大和・谷口友規

③今月の逝去者(2名)

名誉会員(1名)：斎藤常正(逝去日2020年8月1日)

正会員(1名)：小林二三雄(逝去日2020年7月25日)

④2020年8月末会員数

賛助：27, 名誉：43, 正会員：3365 [正会員：3281, 正(院割)会員：82, 正(学部割)会員：2] 合計3435(昨年比-174)

例年より減少数が100名程度多い。年会延期に伴う新入会員の減と考えられる。

<会計>

・ワイリー社より2019年度Island Arc ロイヤリティの入金があった。(約220万円)

・本年度日本地質学会賞受賞者の山路敦会員より、賞金10万円を寄付したいとの申し入れがあり、寄付取扱規則に基づいて、ご厚志を受けることとした。

<その他>

・総務委員会活動報告：会員管理でのクラウドシステム導入/学会会計における今後の取支改善策/総務委員会からの会員増加策について委員会内で意見交換を行った。

具体的には、

・学会誌、ニュース誌の電子化+オンデマンド印刷を検討

・学会関係の会議について、対面が必要なものと、リモート開催でよいものの仕分けを行う

・学生会員・院生会員のメリットをアピールし、新規会員増を図る

・院生会員会費を安くすることを検討

・永久会員制度(退職時に数年分の会費を払うことで、永久会員となる)の検討

3. 広報部会(坂口・小宮)

1) 広報委員会(坂口)

特になし

4. 学術研究部会(辻森・ウォリス・星)

1) 行事委員会(星)

・名古屋大会の代替企画について(→全体報告へ)

2) 専門部会連絡委員会(辻森)

・専門部会の現状について、登録者数が極めて少ない部会が存在する。活動実態の把握が必要などの報告があった。部会改変等の必要性について議論するため、部会の現状を理事会で共有するとよいなどの意見が出た。

3) 国際交流委員会(ウォリス)

・コロナ禍で書面送付が遅れていたモンゴル地質学会とのMOU更新手続きが完了した(2020年5月より5年間)。

・台湾地質学会とのMOU更新予定(2020年9月更新予定)。更新のセレモニーをオンラインで実施することも検討中。

5. 編集出版部会(大藤・狩野)

1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)

(1) 編集状況報告(9月8日現在)

・2020年投稿論文：49 [内訳] 論説24(和文23・英文1), レター8(和文8), 総説1(和文1), ノート3(和文2, 英文1), 報告4(和文4), 口説1(英文1), 巡検案内書8
査読中：29, 受理済み：20(うち特集号4案内書2)

・126巻8月号：特集号「法地質学の進歩」(世話人：杉田律子)6篇(68頁, 発行済)

・126巻9月号：通常号 論説3篇, レター1篇, 報告2篇(約65頁, 校正中)

(2) 投稿編集出版規則の改正案(→理事会審議事項へ)

・誤字等文言の軽微な修正に加え、非会員からの原稿受付やデータポリシーの改訂(オープン化を進める方向)についての文言追加を理事会に提案する。

2) アイランドアーク編集委員会(狩野)

・1ヶ月で4本の新規掲載、3つの特集号が進行中など、直近の編集状況の報告があった。またクラウド型LaTeXを使ってプレプリントのアップが出来る旨の紹介があった。

・ビクトリアルの実験やプレプリントを公開する動きへの対応について意見交換があった。

3) 企画出版委員会(小宮)

特になし

6. 社会貢献部会(松田・矢部・高嶋)

1) 地質教育委員会(高嶋)

・ジュニアセッションについて(→全体報告へ)

2) 地質技術者教育委員会(佐々木)

・名古屋大会代替企画「JABEEオンラインシンポジウム」の開催日を2021年3月7日(日)とし、開催概要をまとめた。

・JABEE地球・資源分野の運営委員会制度・組織変更については8月1日の執行理事会で報告したとおり、資源・素材学科からの正式な説明・依頼状が8月中に送付されることとであったが、9月10日現在未着。同学会に確認したところまだかかるとの回答であった。

・JABEEからWEBでの審査員研修フォーラム(9月14日)に、佐々木副委員長、藤井委員、細矢委員の3名が参加予定。

3) 生涯教育委員会(矢部)

・延期となっていた地質の日関連イベント「街中ジオ散歩」は中止することとした。これまでに実施したイベントの内容等について公開準備を進める。

・「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」に博物館・ジオパーク関係の講演者2名を推薦した。

・2022年の国際鉱物年に向けた企画について委員からの提案等を募集しており、鉱物科学会との連携も検討中。

4) その他

8/16地震火山地質こどもサマースクール三学

会連合企画委員会、運営委員会（zoom会議）に松田理事が参加。地質学会からの担当委員は下記の通り変更。三学会連合企画委員会：星理事→松田理事に変更、運営委員会：星理事→行事委員会から選出予定。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会
1) 利益相反マネジメント委員会（中澤）
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（平田）
「ジオパークコンソーシアム（仮称）」の設立について、今後準備会議には天野委員長、利光委員が担当として出席する。9月中に次回会議開催予定。今年度中のコンソーシアム設立をめざしている。

2) 地学オリンピック支援委員会（高嶋）
本年度の日本地学オリンピックの実施概要などが紹介された。予選は全てオンラインで実施。本選以降もオンラインの可能性あり。

3) 支部長連絡会議（平田）
各支部に対して、名古屋大会代替企画の検討依頼を行った

4) 地質災害委員会（松田）
令和2年7月豪雨災害および令和2年台風10号による災害情報（リンク）を学会HPに適宜掲載した。

5) 名誉会員推薦委員会（佐々木）
2020年度委員を2020年12月に選定し、以後活動の予定。

6) 各賞選考委員会（中澤）

特になし

7) 男女共同参画委員会（委員長 堀 利栄；代理 中澤）

学会内の男女共同参画関係の統計データの解析を実施し、その結果を5月JpGUで発表した。またJpGUセッションの内容などの報告があった。今後は委員会の名称変更、学会各賞受賞者の多様性推進などを検討する予定。

8) 法務委員会（中澤）

特になし

9) 連携事業委員会（中澤）

特になし

9. 研究委員会

1) 地質環境長期安定性研究委員会（委員長 吉田英一）

特になし

2) 南極地質研究委員会（委員長 小山内康人）

特になし

以上

2020年10月10日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人 執行理事 中澤 努

2020年度第5回執行理事会議事録

期日：2020年10月10日（土）13:00～17:30

【WEB会議】

出席者：磯崎会長・平田・佐々木・中澤・岡田・緒方・亀高・辻森・ウォリス・星・坂口・小宮・大藤・狩野・松田・矢部・高嶋（15時より）

事務局 澤木

*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者17名、委任状0名、合計17名の出席

*前回議事録（20-4回）の確定。

Ⅱ 報告事項

1. 全体的報告

・名古屋大会の代替企画について（状況報告）

①2020年度名誉会員証授与・永年会員顕彰ならびに各賞受賞式・受賞記念講演会（星）：9/13（日）にオンライン（Zoom）で実施。視聴者の瞬間最大数は92名。YouTubeで限定公開中。総視聴回数739回（10/5現在）。

②第1回ショートコース（星）：9/19（土）にオンライン（Zoom）で実施。午前は辻森樹会員（東北大）による「東北アジア及び日本列島の地体構造発達史」、午後は沢田輝会員（海洋研究開発機構）による「大陸成長から見たのしい太古代研究」。100名が参加。第2回（オンライン）を10/24（土）に開催予定。

③第1回「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」（星）：9/27（日）にオンライン（YouTubeライブ配信）で実施。プレゼンターは後藤和久会員（東京大）、乾睦子会員（国士館大）、岡田誠会員（茨城大）、坂口有人会員（山口大）、渡来めぐみ会員（茗溪学園中学校高等学校）、松永豪氏（大阪府立泉北高等学校）、渋谷美月氏（北海道博）、白井孝明会員（萩ジオパーク）の8名。常時100～120名程度の視聴者があり、チャットによる質問・コメントも多く寄せられた。視聴者の瞬間最大数130名。YouTubeで公開中。総視聴回数720回（10/5現在）。第2回を11/29（日）に開催予定。

今後も定常的な行事として開催する方向で議論があった。そのためには別途担当者を置くことや専門部会からの協力が必要。今後の行事の計画、進め方について、叩き台を次回星理事より提案してもらうこととした。

④支部・部会単位の学術発表会：構造地質部会オンライン例会が開催された（10/7-9開催。参加者延べ147名。発表申込21件）。地域地質・層序部会合同オンライン研究発表会が検討され、発表希望等を事前にアンケート調査したが、希望者が少数であったため、開催しないこととなった。

⑤JABEEオンラインシンポ（佐々木）：「自然災害列島における地質技術者の育成－大学統合期における地質学教育－」（21/3/7（日）開催予定）。プログラム案等をHPに掲載し、

広報を開始した。

⑥ジュニアセッション（デジタルポスター）（高嶋）：9/30に締切った。地学と関連の無い課題の応募が12件あったが（電子レンジ、綿糸の色、農園づくりなどの研究）、専門性に基いた正当な評価ができないということから受理せず、該当する分野の学会での発表を推奨した。結果16校18件の応募を受理した。評価コメントについては、例年どおり全理事からのコメントの依頼を行う。今年度は対面式の討論ができず、コメントをより充実させる必要があることから、地学教育委員会にもコメントを依頼する。また今年度は野外調査や室内での議論も十分に行えない環境のなか、頑張っただけ応募いただいた。理事の皆様には是非とも前向きなコメントをお願いしたい。

⑦地質系若者のためのキャリアビジョン誌（坂口）：計25社から申込があり、現在冊子作成中。30万円ほどの黒字が見込まれる。

次年度学術大会の実施形態について、早い時期に検討すべきとの意見が出され、A完全対面、B完全オンライン、Cハイブリッドのそれぞれの具体的な実施方法を検討し、並行して今年度の他学会のオンライン大会の実績などについても情報収集を進めることとなった。

・令和2年度産業標準化事業表彰（経済産業大臣表彰）の公募に、学会から地質JISに関して産総研地質調査総合センターを推薦したが、残念ながら受賞ならず。

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

・原子力総合シンポジウム2020（9/30、オンライン開催）への共催依頼があり承諾した。

・第58回アイソトープ・放射線研究発表会（21年7月開催予定）への参画依頼があり、後援として承諾した。

・第62回藤原賞受賞候補者推薦依頼（12/15締切、11/30学会締切）（→geo-flash、ニュース10月号掲載）

・新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館より企画展示「ジオパークの微化石展」（8/1-9/6開催、地質学会後援）事業実施報告があった。

<会員>

①今月の入会者（1名）

正（院割）会員（1名）：横山裕晃

②今月の退会者（1名）

正会員（1名）：栗田泰夫

③2020年9月末会員数

賛助：27、名誉：43、正会員：3368〔正会員：3282、院割：83、学部割：3〕

合計 3438（昨年比-174）

<会計>

特になし

<その他>

・総務委員会活動報告：会員管理でのクラウドシステム導入/学会会計における今後の

収支改善策/総務委員会からの会員増加策について引き続き委員会内で意見交換を行っている。

3. 広報部会 (坂口・小宮)

1) 広報委員会 (坂口)

・第12回惑星地球フォトコンテストの募集・広報を開始する (ポスター製作中)。日本ジオパークネットワーク (後援)、深田研ジオ鉄普及委員会 (後援)、株式会社 ウィンディーネットワーク (協賛)

・地学オリンピック予選参加者配布用冊子「地球にわくわく未来ガイド」への広告掲載依頼 (A4, 1頁カラー広告無料)があった。中高生対象の内容を検討し広告を掲載する。また本未来ガイドと合わせてジオルジュ最新号も配布予定。

・ジオルジュ 2020年後期号を編集中。11月発行予定。

・日本ジオパークネットワークよりジオルジュバックナンバー (創刊～最新号: 各約200部) の購入注文があった。

4. 学術研究部会 (辻森・ウォリス・星)

1) 行事委員会 (星)

・名古屋大会代替企画 (→全体報告へ)
・地球惑星連合より2021年大会学協会プログラム委員選出依頼があり、行事委員会から (正) 納谷友規会員: 層序部会、(副) 松崎賢史会員: 海洋地質部会 を選出した。

2) 専門部会連絡委員会 (辻森)

・各部会に専門部会規則に表彰についての条文の追加を依頼した。規則改正は次回12月理事会への提案してもらう。

3) 国際交流委員会 (ウォリス)

・台湾地質学会とのMOU更新のため書面を準備中。

4) 地質標準化委員会 (辻森)

特になし

5. 編集出版部会 (大藤・狩野)

1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)

(1) 編集状況報告 (10月5日現在)

・2020年投稿論文: 59 [内訳] 論説31 (和文30・英文1), レター9 (和文9), 総説2 (和文2), ノート3 (和文2, 英文1), 報告5 (和文5), 口絵1 (英文1), 査読案内書8
査読中: 29 受理済み: 20 (うち特集号6案内書2)

・126巻9月号: 通常号 論説3篇, レター1篇, 報告2篇 (約74頁, 発行済み)

・126巻10月号: 通常号 論説2篇, レター2篇, 口絵1篇 (約55頁, 校正中)

2) アイランドアーク編集委員会(狩野)

(1) 編集状況報告

・4編/月程度の公開数で推移しているなど直近の編集状況の報告があった。

・被引用数0の論文が減ったことがIF上昇の要因として挙げられたが、最近中国からの投稿数が激減しており、IFにも影響が出ることが予想される。

3) 企画出版委員会 (小宮)

特になし

6. 社会貢献部会 (松田・矢部・高嶋)

1) 地学教育委員会 (高嶋)

・ジュニアセッションについて (→全体報告へ)

2) 地質技術者教育委員会 (佐々木)

・名古屋大会代替企画「JABEEオンラインシンポジウム」(→全体報告へ)

3) 生涯教育委員会 (矢部)

・2022年の国際鉱物年にむけた企画を委員会で検討中。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会

1) 利益相反マネージメント委員会 (中澤)
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (平田)

①日本ジオパークコンソーシアム準備会議にジオパーク支援委員会から天野委員長と利光委員が参加

②ユネスコ世界ジオパーク国内推薦机上審査への協力は、今後設置されるコンソーシアムへ移行される予定

2) 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)

特になし

3) 支部長連絡会議 (平田)

・各支部に対して、支部規則に表彰についての条文を追加を依頼した。規則改正は次回12月理事会への提案してもらう。

4) 地質災害委員会 (松田)

・防災学術連携体では、21/1/14 (木) に東京医科歯科大・鈴木章夫記念講堂にて東日本大震災十周年シンポジウム「東日本大震災からの十年とこれから」を開催予定。地質学会からは以下の内容で発表を申し込んだ。

後藤和久 (東京大学)「(仮題) 東日本大震災後の古津波堆積物研究の現状と将来展望」これに合わせて、全58学会から東日本大震災の経験とその後の活動への展開に関連する寄稿を依頼されている (期日: 11/30(金)17時)。磯崎会長が対応予定。

5) 名誉会員推薦委員会 (佐々木)

・2020年度委員を2020年12月に選定し、以後活動の予定。

6) 各賞選考委員会 (中澤)

・2021年度学会各賞募集 (12/1締切) を開始した (ニュース誌9月号掲載)。近年応募数が少ないので、周囲に応募を呼びかける。また今後、キャリアオーバー制度を導入してはどうかという意見が出された。

7) 男女共同参画委員会 (委員長 堀 利栄; 代理 中澤)

・11/18にEGU主催のEDI (Equality, Diversity, and Inclusion) forumがweb開催される予定で、堀委員長が参加予定。EGU, JpGUでは一定以上のダイバーシティ基準をクリアした場合にEDIロゴを付与しプログラムに明示することを検討中。

8) 法務委員会 (中澤)

特になし

9) 連携事業委員会 (中澤)

特になし

9. 研究委員会

1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長 吉田英一)

特になし

2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)

特になし

I 審議事項

1. 日本学術会議の「第25期新規会員任命に関する要望書」に対する学会対応について

10/9付で日本地球惑星連合、自然史学会連合ほか複数の学会連合により共同声明が発出された。地質学会は、自然史学会連合参加学会として声明へ名を連ねたことを追認し、共同声明の内容に賛同することをメールで理事会の了解を得てから、学会HPで通知することとした。

2. 専門部会規則について (中澤)

法人化前に設置された専門部会には規則が制定されていないため、速やかに規則の制定を依頼する。また部会活動活性化のため、今後部会の統廃合を促進する仕組みが必要ではないかとの意見が交わされた。

3. 表彰制度の見直しについて (磯崎会長)

それぞれの賞について検討がなされた。引き続き検討を進め、12月の理事会で提案する。

・日本地質学会賞: 受賞対象から「グループ」を除き、「会員」個人のみを対象とする。

・日本地質学会功労賞: 受賞対象から「グループ」および「非会員」を除く。「会員」のみを対象とする。

・日本地質学会Island Arc賞: 論文に対して授与する賞であるため、受賞対象に関わる自明の記述 (「共著の場合は全員を受賞者とする」) を削除する。またIsland Arc Award (英語表記) を正式名称とする。

・日本地質学会研究奨励賞: 受賞対象を筆頭著者に限らない。年齢等受賞条件を満たしている場合は共著者でも推薦可とする。

・中堅(50歳未満)向けの新賞の名称 (案): 日本地質学会ナウマン賞

以上

2020年11月14日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長 (代表理事) 磯崎行雄
署名人 執行理事 中澤 努